

【太田窪】

もともとは大田窪だったが、江戸時代の天保8年「皆済目録」に代官が村名を書くさい、書き誤りそれ以降「太田窪」と村名が変わって現在に至る。

明治初年の小字は、道祖土組・大在家・諏訪入・本村・善前南・善前北・新田・不動入・大島・下組・前耕地。

※ 大多窪 と書かれたこともある

※ 「皆済目録」江戸時代、幕領の代官が支配村々の年貢皆済後、御殿勘定所皆済方へ提出する帳面で、年貢米金（べいきん）皆済目録ともいう。支配所の高を国・郡別や定免（じょうめん）・検見（けみ）別とはせず一括し、本途（ほんど）・見取（みとり）・高掛物（たかがかりもの）・小物成（こものなり）・口米永（くちまいえい）・諸運上分一（ぶいち）などに2升の延米（のべまい）を付し、米蔵（こめぐら）・金蔵（かねぐら）へ納めるべき米金を項目ごとに記し、石代納（こくだいのう）分は内訳して代金を記し、元払（もとばらい）勘定（収支決算）に合わせた帳面で、地方（じかた）三帳の一つ。

ダイタクボの語源はダイダラボッチ伝説に由来し、ダイダラボッチの足跡であるといわれている

【大在家】

太田窪の小字（地名）で、現在の太田窪1丁目・3丁目（緑区）と2丁目（南区）を表す

※大在家協和会は、大在家自治会になる前の名称。「協和」とは、心を合わせ仲良くすること。

【谷田村】

明治22年（1889年）の町村制施行により、大谷場、太田窪、大谷口、広ヶ谷戸、円正寺と原山新田の五箇村一新田が合併した。村名は大谷場、大谷口の「谷」と太田窪の「田」からとった合成地名